

令和2年度「災害ボランティアセンター設置・運営訓練」写真記録

～ 鶴岡市総合防災訓練 ～

- 1、日時 令和2年10月11日（日）午前8時30分～午前11時30分
- 2、場所 田川地区（田川コミュニティセンター）
- 3、協力 公益社団法人鶴岡青年会議所
特定非営利活動法人鶴岡災害ボランティアネットワーク
田川地区自治振興会（ボランティア役）
- 4、内容 庄内南部を震源とする震度6の大地震発生。被害が特に大きかった田川地区で避難所設置に関する人手が足りないため、田川地区自治振興会よりボランティア依頼があった。田川コミュニティセンターに急きょ災害ボランティアセンターを設置し、「ニーズ把握」「ボランティア受付」「マッチング」「活動への送り出し」の訓練を行った。



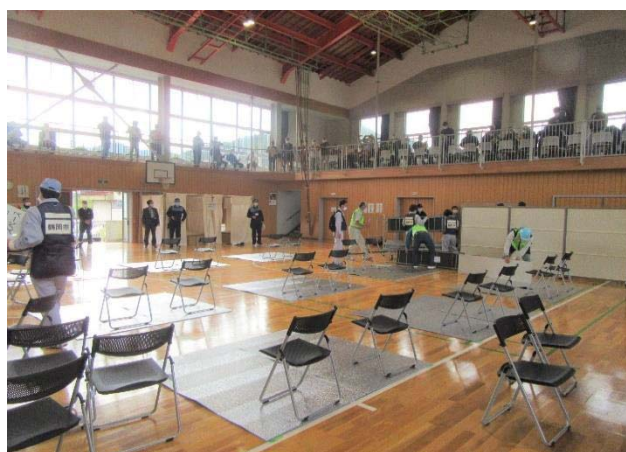
▲今年、事前の設営は行わず、災害発生後の緊迫した状況の中で各部署が準備を始めた。



▲避難所を設置することが決まり、田川自治振興会と市役所職員等が設営を始めた。



▲避難者のスペースが作り始められた。
3密を防ぐために、広めの間隔をとっていた。



▲避難者を受け入れる準備がもうすぐ完成する。
2階ロビーには、市災害対策本部が設置された。



▲ステージ上では、避難所運営委員会が実施され、災害ボラセンからもセンター長(地域福祉課長)が出席し、ニーズ把握を行った。



▲避難所内に、災害ボランティアセンターを設置しボランティアの受付、マッチングに備えた。



▲災害ボランティアセンター運営の、最終チェックを行った。(市社協山木会長も参加してくれた)



▲「ボランティア受付班」 検温、アルコール消毒等感染症予防に努めながら、ボランティアを受け入れた。



▲「マッチング班」 今回はコミセンの大集会室にすべての部署が配置されたので、災害ボラセンも残念ながら「密」は避けられず。



▲「マッチング班」 ニーズとボランティアをつなぎ、班分けをして活動場所に送り出した。



▲把握したニーズと、受付したボランティアを、ホワイトボード上でマッチング。



▲今回は、訓練の中でも実際にボランティア活動を行っていただいた。「段ボールベッド、間仕切りの設置」と「救援物資受付」の2つの活動でした。



▲途中で、統監視察(市長)があり、訓練内容を説明した。



▲2回目の避難所運営委員会の内容を、災害ボランティアセンター長(地域福祉課長)が、スタッフに報告。



▲新型コロナウイルスの可能性のある発熱者を、専用スペースに隔離し、到着した救急隊員が病院へ搬送する訓練。



▲閉会式：3名の訓練評価者から、それぞれの立場からの評価をいただいた。
 ①NPO法人やまがた絆の架け橋ネットワーク 早坂代表理事
 ②岩手大学地域防災センター 熊谷特任助教
 ③庄内保健所 渡部地域保健主幹
 最後に、統監(市長)の講評があった。

令和2年度 災害ボランティアセンター設置・運営訓練概要

～ 鶴岡市総合防災訓練 ～

- 1、日時 令和2年10月11日（日）
- 2、場所 田川地区（コミュニティセンター）
- 3、協力 公益社団法人鶴岡青年会議所
特定非営利活動法人鶴岡災害ボランティアネットワーク
田川地区自治振興会

4、今回の訓練について

- (1) 新型コロナウイルス感染症予防のため、規模を縮小し「避難所開設・運営」を主とした訓練。
- (2) 災害ボランティアセンター設置・運営訓練も行われるが、内容は「避難所への支援」と「物資受付」の活動のみで、スタッフ数も例年の1/3程度で行う。
- (3) 訓練の視点は、感染症予防を行いながらの災害ボラセン運営と、スタッフが避難所運営委員会に参加して現状と必要なニーズを把握し災害ボラセン運営に繋げる動きを取り入れる。
- (4) 災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル（様式も）は、現在見直し中のマニュアルを使用して訓練を行うこととする。

5、訓練内容

(1) 災害想定（全体）

10月11日（日）午前8時30分に、庄内平野東縁断層帯の庄内南部を震源とするマグニチュード6.9の地震が発生した。鶴岡市役所駐車場に設置してある震度計は、震度6を記録した。この地震の影響で、田川地区で人的被害、家屋損壊、土砂災害などが数箇所発生、電気・上下水道等のライフラインの障害も発生した。各集落の住民は、非常持出物品を携行し、指定された指定緊急避難場所及び避難所に避難を開始する。

(2) 訓練想定（災害ボラセン）

特に被害が大きい田川地区の被害状況を確認に行ったところ、避難所（コミセン）の準備に関わる人手が不足していて、ボランティアの協力をお願いしたいとの依頼があった。市社協では、鶴岡市全体の被害を確認しながら災害ボランティアセンター設置を目指しているところだが、急きょ、田川地区に災害ボラセンのサテライトを設置した。地区内のニーズ把握と同時進行ではあるが、避難所内の準備と救援物資の受付を行うボランティア確保を優先度の高いニーズと判断してボランティア募集、活動をスタートした。ただし、新型コロナウイルス感染症予防を行いながらの対応とするため、留意点をあらかじめ想定しどこまで徹底した対応ができるかの検証も行うものとする。

6、訓練参加者予定（名簿は、別紙参照）

- | | |
|-------------------------|----|
| (1) 市社協（地域福祉課3、ボラセン2） | 5名 |
| (2) NPO鶴岡災害ボランティアネットワーク | 3名 |
| (3) 鶴岡青年会議所 | 1名 |
| (4) 田川地区住民協力者 | 8名 |

合 計 17名

7、役割分担

- (1) 災害ボラセンスタッフ役（市社協職員、NPO,青年会議所） 9名
センター長1、統括1、ボランティア受付班3、ニーズ班1、マッチング班2
- (2) ボランティア役（田川地区住民） 8名
感染症予防のため、今回のボランティアは庄内地域の人に限定した想定

8、その他

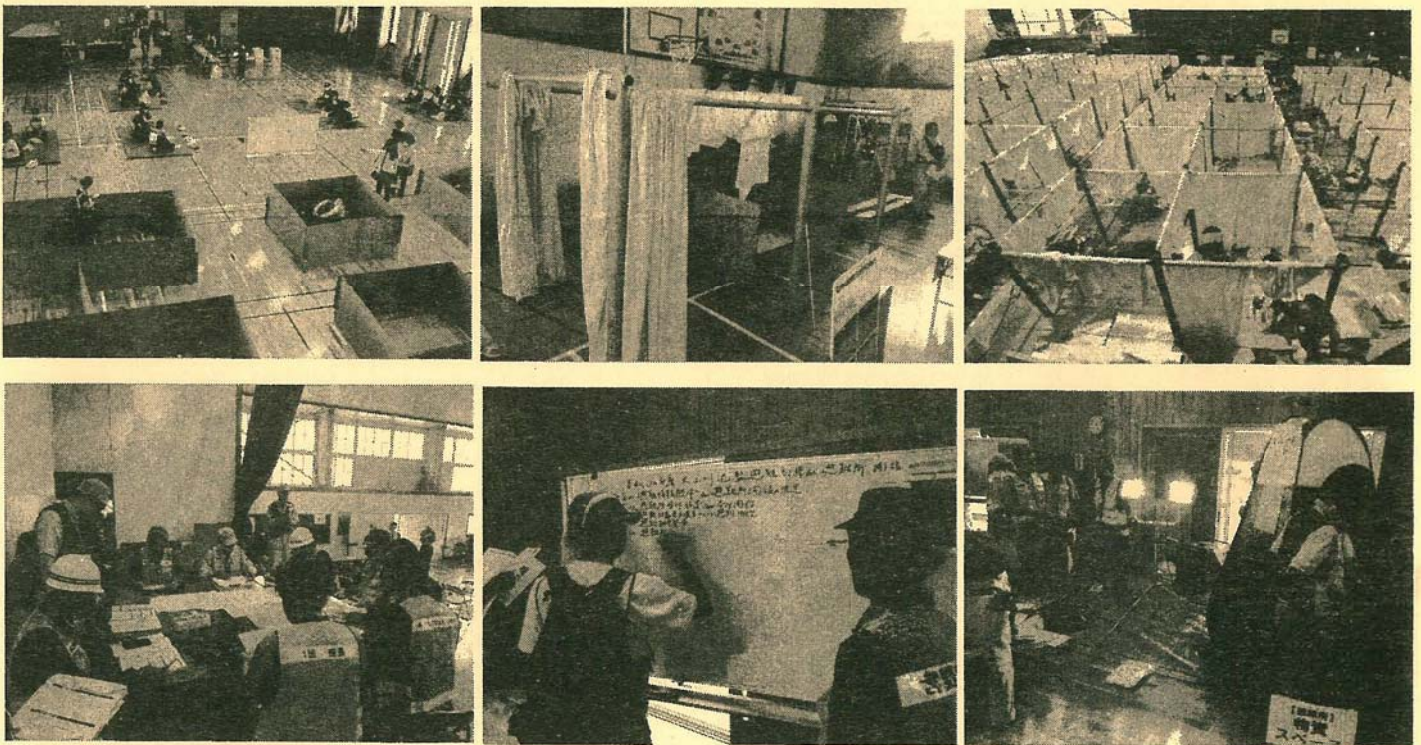
- ボランティアは、避難所の段ボールベット等の設置を実際に行います。スタッフも現場確認として手伝っていただく場合もあります。（見学も含め）

令和2年度 鶴岡市総合防災訓練

○ 日 時 令和2年10月11日（日）8：30～11：30

○ 会 場 鶴岡市田川地区（田川コミュニティセンター）

○ 訓練想定 10月11日（日）午前8時30分に、庄内平野東縁断層帯の庄内南部を震源とするマグニチュード6.9の地震が発生した。鶴岡市役所駐車場に設置してある震度計は、震度6強を記録した。この地震の影響で、田川地区で人的被害、家屋損壊、土砂災害などが数箇所発生、電気や上下水道等のライフラインの障害も発生した。各集落の住民は、非常持出物品を携行し、指定された指定緊急避難場所及び避難所に避難を開始する。また、新型コロナウイルス感染症対応により避難所の収容人数が不足するため、中里、宮野前、行々、東目の公民館に分散避難する。



<主催> 鶴岡市

<訓練参加機関・協力団体>

田川地区自治振興会、田川地区各自主防災会、鶴岡地区交通安全協会、鶴岡市消防団、鶴岡市社会福祉協議会、生活協同組合協立社、株式会社武田商店、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社、北日本羽黒食品株式会社、山形三菱自動車販売株式会社、山形日産自動車販売株式会社、一般社団法人日本福祉用具供給協会、公益社団法人隊友会鶴岡田川支部 ※順不同